

平成29年 4月 3日

広報推進協議会
構成員 各位

広報推進協議会 座長
国土地理院参事官

『「国土を測る」意義と役割を考える懇話会報告書』及び
『地理空間情報活用推進基本計画（第3期）』等に関する
説明会への参加について（依頼）

日頃から国土地理院の事業に関しましては、格段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、国土地理院では、多分野にわたる有識者から構成する『「国土を測る」意義と役割を考える懇話会』を開催し、有識者の方々の活発な議論を踏まえつつ、具体的な提案も交えながら、国土地理院を含めた「国土を測る」活動にたずさわる人々が、「国土を測る」活動の意義や役割等を広く伝えるために取り組むべき方向性をまとめた報告書を作成しました。国土地理院では、この報告書に基づき、「国土を測り、未来を描く」ための多様な取組がなされるように関係する様々な主体と連携しつつ、活動を強化してまいりたいと考えております。

また、先日、閣議決定されました「地理空間情報活用推進基本計画（第3期）」では、防災、安全・安心、新産業創出、交通・物流、生活環境、地方創生、海外展開といった幅広い分野での地理空間情報の高度な活用に重点的に取り組み、世界最高水準の「地理空間情報高度活用社会（G空間社会）」の実現を目指すこととされております。このG空間社会を実現するためには、産学官民の協調による共通基盤の構築や人材育成等を進めていく必要があると考えております。

つきましては、本報告書等に関する説明会を下記のとおり、開催させて頂きたく、ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、貴団体の会員等の皆様に広くご周知、ご参加を頂きたくご依頼申し上げます。

記

1. 日 時：平成29年4月25日（火）13：30～15：30 （開場13：00）

2. 場 所：関東地方測量部地震予知連大会議室

3. プログラム

- (1) 『「国土を測る」意義と役割を考える懇話会』報告書について
- (2) 地理空間情報活用推進基本計画（第3期）について
- (3) 国土地理院災害対策関係功労者感謝状贈呈実施要領の制定について
- (4) i-Construction推進に向けた測量技術マニュアルの作成・改正について
- (5) その他
- (6) 質疑応答・意見交換

4. その他

参加事前登録制（別紙）

申込み期限 平成29年4月19日（水）

申込み方法 FAX又はE-mailでお願いします。

FAX：029-864-6441 E-mail：gsi-pco@ml.mlit.go.jp

問い合わせ先 ： 広報推進協議会事務局
（国土地理院政策調整室）

TEL ： 029-864-1113

E-mail：gsi-pco@ml.mlit.go.jp

『「国土を測る」意義と役割を考える懇話会報告書』
等に関する説明会

参加事前登録用紙

※参加者について記入して下さい。

団 体 名	所 属	氏 名	連絡先 (E-mail 又は 電話)

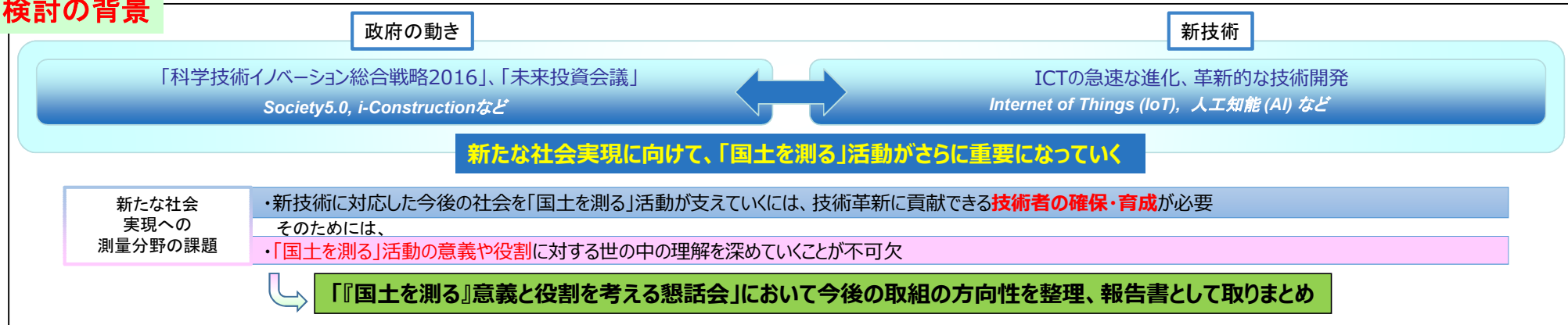
※参加事前登録における個人情報、取り扱いには十分注意し、本説明会の参加者の把握及びその調整のみに利用させていただきます。

送信先 (FAX : 029-864-6441 又は E-mail : gsi-pco@ml.mlit.go.jp)
国土地理院
総務部政策調整室 あて

上記のとおり、送付します。

送信元 : _____

検討の背景



報告書「国土を測り、未来を描く」～測量・地図の「力」と「可能性」を伝える～ 概要

「国土を測る」活動とは

「国土を測る」活動を様々な観点・切り口により整理・明確化

(例)具体的に距離や大きさを「測る」行為、国土管理を行う上で必要なこと、自然災害から人々を守ることに役立つもの、誰もが関わることができる分野、等

「国土を測る」活動の意義や役割等の適切な伝え方

「広報」と「教育」の2本柱で、「国土を測る」意義と役割の効果的な伝え方を整理

【1】広報活動を通して多くの人々に伝える

基本的理念や効果的な広報、
受け手別の手段等

<基本的理念、効果的な広報>

- ・**広報の受け手の明確化**
- ・**受け手側の視点**から伝える
相手の知りたがっている情報を提供する
- ・**広報スター**の育成
見れば意義や役割をイメージできるように
- ・**ストーリー**で伝える
例示による説明や、時系列に沿った説明
- ・**地図**を利用した広報活動
地図に含まれる情報・表現の魅力を伝える

<受け手別の効果的な伝え方の例>

- ①**一般の人々**
科学館の活用、イベントの開催 など
- ②近い将来の**担い手**とその保護者
インターンシップ、学校訪問 など
- ③「国土を測る」分野に**関心の高い人々**
SNSの利用、検定、特別イベント など
- ④**マスコミ**関係者
分かりやすい事例、説明会開催 など
- ⑤**行政機関**関係者
説明会の機会活用、正確な情報 など
- ⑥「国土を測る」**活動に関わっている人々**
業界広報誌、広報推進協議会 など

【2】教育支援を通して多くの人々に伝える

場面別にみた教育の観点・方法等

<4つの場面>

- ①小・中学校における教育:
三次元の地図など**わかりやすい教材**の提供、**児童書**や**科学雑誌**の活用
科学館や**博物館**と連携した学習機会の創出
- ②高校における教育:
「地理総合」必修化に向けた**教員支援**と教材開発
教科書会社へのコンテンツ提供、**科学オリンピック**を通じた関心の惹起
- ③大学、専門学校などにおける教育:
企業や団体と連携した**実習**や**見学**実施、教員の支援と教材整備
サマースクール等の機会提供
- ④生涯教育、地域教育:
地域防災教育での活用、**出前講座**の実施、
身近な地域がわかるインターネットメニューの充実

伝えると同時に必要な取組

広報活動、教育支援に併せて実施が必要な取組

- ①活動に従事する者の**働きやすい環境**の整備、②「国土を測る」活動を支える**人材の育成**、③将来の活動に向けた**仕組みの改善**、
④**災害対応**におけるデジタル地図の積極的な活用、⑤地理空間情報の**高度活用の推進**、⑥**国際的な視野**からの取組の推進



地理空間情報活用推進基本計画の概要

第3期の「地理空間情報活用推進基本計画」では、今後5年間、地理空間情報活用技術を第4次産業革命のフロントランナーとし、一人一人が「成長」と「幸せ」を実感できる、新しい社会の実現を目指す。

1. 地理空間情報の活用推進政策に関する認識

①「いつ・どこで・何が・どのように」 ～地理空間情報はイノベーションの源泉

- －「第4次産業革命」「Society 5.0」を実現させる鍵
- －IoT・ビッグデータ・AIの活用で、高齢者等を含めた国民生活の利便性向上、新産業・新サービスの創出、雇用の拡大

②地理空間情報の流通と利活用の飛躍的な向上

- －平成30年度に準天頂衛星4機体制を確立し、高精度測位サービス及びメッセージ機能による高度利活用
- －G空間情報センターを中核とした情報流通メカニズムによる利活用の大幅な拡大

③次々と生まれる新たな産業・新たなサービス

- －センチメートル級高精度測位による自動走行支援
- －屋内外をシームレスに、全国各地を容易に移動
- －革新的な技術・サービスの導入による地域活性化

④災害から一人一人の命を救う地理空間情報

- －東日本大震災の復興まちづくり、ビッグデータの活用
- －災害情報の集約・共有システム、準天頂衛星のメッセージ機能を活用した初動対応・応急対策の向上、国土強靱化

⑤東京2020大会をG空間社会のショーケースに

- －訪日外国人への移動支援等おもてなしサービス
- －地方への誘導によるインバウンド振興、観光立国の実現
- －我が国の魅力発信、技術・産業の海外展開、国際貢献

⑥G空間社会の実現により経済の好循環を目指す

- －2020年を弾みとし、基幹的なインフラとして全国展開
- －我が国の技術・ノウハウ等をパッケージで海外展開
- －準天頂衛星7機体制を見据えたグローバル視点の人材育成

2. 地理空間情報の活用の推進についての基本的な方針

産学官民が協調して、高精度で利用価値の高い地理空間情報をリアルタイムで利用できる環境を整備するとともに、これらを高度に活用し、社会課題の解決や新産業・新サービスの創出を目指す。

IoT・ビッグデータ・AIなどの先端技術を活かした世界最高水準のG空間社会の実現により「目指すべき姿」

①災害に強く持続可能な国土の形成への寄与

一人一人の命を救う情報収集・共有等による災害対応力の強化・高度化、社会資本維持管理の効率化・高度化

②新しい交通・物流サービスの創出

高精度測位情報による新時代の交通・物流システムの実現

③人口減少・高齢社会における安全・安心で質の高い暮らしへの貢献

多様で豊かな暮らしのための高齢者等へのモビリティ向上サービス、住民の身近なサービス分野での利活用

④地域産業の活性化、新産業・新サービスの創出

地方創生を加速するIT農林水産業、i-Constructionによる省力化・生産性向上

⑤地理空間情報を活用した技術や仕組みの海外展開、国際貢献の進展

測位インフラ、関連ビジネス、人材育成等をパッケージ化し世界に広げる
東京2020大会をG空間社会のショーケースに

- ◆ G空間情報センターを中核とした産学官民連携による地理空間情報の整備・流通・利活用
- ◆ 準天頂衛星システムや電子基準点網の高度化等による高精度・高信頼性の測位サービスの展開
- ◆ 地理空間情報に関するリテラシー教育、人材育成

3. 地理空間情報の活用推進に関する具体的施策

1. 地理空間情報を高度に活用するための基盤と環境の整備
2. 高精度な地理空間情報の高度な活用 ～東京2020大会をショーケースに～
3. 暮らしの中で実感できる地理空間情報の活用
4. 地理空間情報の活用による海外展開・国際貢献
5. 地理空間情報の整備と活用を促進するための総合的な施策
 - ①関係主体の推進体制、連携強化
 - ②知識の普及・人材の育成等の推進
 - ③研究開発の戦略的推進
 - ④重点的に取り組むべき施策（シンボルプロジェクト）